

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500360
法人名	医療法人 愛寿会
事業所名	グループホーム多喜浜
所在地	愛媛県新居浜市多喜浜2丁目4番43号
自己評価作成日	平成27年2月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年3月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「安心、満足度、信頼度」をモットーに一人ひとりが家庭的な環境の中で穏やかに生活でき、利用者様の明るい笑顔や笑いが絶えない毎日が送れるよう頑張っています。日々の健康管理や、一般状態の観察を丁寧に行い、協力医療機関と密に連携を図っております。職員間の連携もスムーズであり、利用者様やご家族様とも良い関係が築けています。食事は管理栄養士による献立表をもとに3食、職員が手作りし提供しております。

昨年は、「今年は外に出て行こう」とテーマに挙げ、いろいろな場所に出かけられるよう取り組まれた。月に1~2回、日曜日には、利用者数名ずつが順番に、近くのお寺やショッピングモールに出かけている。好きなお菓子を買ったり、フードコートでおやつを食べる等して楽しめるようだ。暖かい時期には、事業所の前の川にザリガニを見に行っている。又、おやつ持参で近くの河川敷でお花見したり、季節に応じて、マイントピア別子に紅葉や菊を見に出かけたり、池田の池の菖蒲やマリンパーク等にも出かけて楽しんでいる。  
職員は、利用者の好み等、反応等を見ながら図書館で本や紙芝居を借りて来て、読み聞かせを行っている。新居浜や西条弁が出てくる紙芝居等もあり、会話も弾み利用者の楽しみとなっている。  
年間2回、家族会を行っている。6月には、ご家族が利用者と一緒にボランティアの三味線演奏を聞いたり、昼食やおやつを食べて過ごす時間が作られた。ご家族同士でおしゃべりするような場面も見られたようだ。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム多喜浜

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)  
氏名 金谷密代

評価完了日 平成27年2月3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人ひとりが安心、安全で満足感のある生活を送れる事を理念とし、事業所で毎日、理念・運営心得を読み上げて、職員間で共有し個々の心に刻み反映するように心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人理念「医療、福祉の融和をコンセプトにオープンで透明感のある安心度、満足度、信頼度の高い医療・保健・福祉を提供し、地域社会に貢献します。」を毎朝のミーティング時に唱和している。管理者は、「地域に寄り添った生活」を実践できるよう職員に話している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>開設3年となり、外出行事も多くなった。校区の文化祭に参加し作品も出品するようになった。秋祭りには太鼓台を施設前まで入れて下さった、かき夫さんの法被を着せてもらい写真撮影をすることが出来た。また、地域の方が駐車場の草刈りを手伝って下さったり、川さらい等も一緒にすることで認知症の理解を深めることができた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>喜多浜小学校の文化祭には、利用者と職員がチリ紙を丸めてつくった干支の作品を出品し、当日は見学等に行かれた。乳児園の3歳児が来てくれ、歌を聞かせてくれたり、肩たたき等をしてくれる。又、定期的に三味線や歌のボランティアの訪問がある。新居浜太鼓台の子供太鼓が事業所の駐車場まで入ってくれて、利用者は太鼓を見たり、子ども達とのふれ合いをたいへん喜ばれたようだ。玄関先のベンチで日向ぼっこをしていると、近所の方が手を振ってくださることもあるようだ。近くのスーパーに買いに行った際には、レジ担当の方が話しかけてくれるようなこともよくある。</p>	法人は、「地域社会に貢献します。」と理念に掲げている。管理者は、運営推進会議時に、地域の情報や他事業所の取り組み等も教えてもらいながら、さらに地域とのつながりを作っていくたいと話しておられた。今後さらに、地域のいろいろな立場の方とのつながりを作り、又、事業所でも、有用性や専門性等を活かして地域に向けてできることを探っていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所としての地域貢献は難しいが施設前の川さらいと一緒にすることで認知症に対する理解を少しずつ深める事が出来ている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の近況報告や健康状態を報告しながら、意見を頂いたり、施設内での取組み等を説明している。また、自治会長や民生委員からは地域の情報を頂いている。	
			(外部評価) 毎回、会議には、ご家族・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員の参加がある。地域包括支援センターより、「他グループホームと合同で会議を行い、意見交換を行ってみてはどうか」と提案があり、これまでに2回、市内の他事業所と合同で会議を行っている。他事業所の見学等も行い、運営やしつらえ等参考になることも多かったようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員として、毎回、地域包括支援センターの担当者の出席があり、事業所の実情を話し、事業所に於いてのサービスの取組み方などのアドバイスを頂いている。また、介護相談員の方からもアドバイスを頂いている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の好み等、反応等を見ながら図書館で本や紙芝居を借りて来て、読み聞かせを行っている。新居浜や西条弁が出てくる紙芝居等もあり、会話も弾み利用者の楽しみとなっている。2ヶ月に1回の介護相談員の訪問時には、利用者とお話をしてくれて、その後、管理者との意見交換がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修を月1回行っており、身体拘束についても研修を行った。身体拘束をしないケアに取り組み、見守りを行っている。	
			(外部評価) 職員は、身体拘束について内部研修時に勉強をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  中々か、研修会には参加できないが、日頃から虐待とみなされるような発言や行動がないよう注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在1名成年後見制度を受けている方がいる。制度について理解できていると思うが研修会があれば参加し、今後に生かしていきたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には必ず、契約書と重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し、契約を結ぶようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族には意見や要望は遠慮なく言って下さるよう、運営推進会議や家族会、面会時、受診時の来所時に話している。また、利用者の日常生活の報告時に言い易い雰囲気心がけ、サービスの取り組みなども伝え理解を頂いている。	
			(外部評価)  年間2回、家族会を行っている。6月には、ご家族が利用者と一緒にボランティアの三味線演奏を聞いたり、昼食やおやつを食べて過ごす時間が作られた。ご家族同士でおしゃべりするような場面も見られたようだ。12月には、たこやき作りしたり、ご家族の協力を得ながら利用者が年賀状を出せるよう取り組まれた。毎日、ご自宅の庭の花を摘んで会いに来られるご家族がおられ、職員はお会いするたびに、利用者の様子等を報告して意見をうかがうようにしている。そのような取り組みを重ねることで事業所からの提案等もし易いようだ。2ヶ月毎、ユニットごとに便りを作っており、廊下と各部屋に掲示している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のカンファレンスや朝の申し送り時に意見や提案を聞き、利用者のケアや業務の反映に努めている。	
			(外部評価)	
			内部研修はテーマを決めて行っており、職員が順番に当番になり、資料等も準備している。夜、寝付けない利用者について、職員は、「真っ暗では寝れない」様子に気づき、少し光を落とすようにして対応して、安眠につながったような事例がある。職員のアイデアで、湿度調節のため、ペットボトルを半分に切って水を入れ、邪魔にならないようベッド下や部屋の片隅に置くようにしていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の勤務状況を把握し、職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう可能な限り努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修の案内を知らせるが、参加することが難しく、毎月内部研修を行い、発表者を決め開催し、一人ひとりのケアの在り方を見直している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			愛媛地域密着型サービス協会の研修会に参加したり、他の施設と、合同の運営推進会議を行い質の向上を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人、家族と面談し、納得して入居して頂けるよう、不安や要望に耳を傾け、安心感を抱いて頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)  不安に思っている事や困っていること等、また、要望など遠慮せず話して頂き納得するまで傾聴し、本人、家族が安心できよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)  利用者様がスムーズに入所できるように入所前に自宅訪問やデイなどの施設を訪問し、利用者様の必要なサービスを見極め、馴染みながら入所できるような支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)  利用者様の出来る事はして頂いている。洗濯物を職員と一緒に畳んだり、おやつの団子作りなども雑談しながら行い、こころ通わせれるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)  受診等は家族にお願いし、来所時には利用者の健康状態や日常生活状況を伝えている。家族の悩みに応えたり、行事にも参加して頂き、楽しみながら家族、利用者を支えていく関係作りを築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)  外出行事が多くし、生活していた付近を見て回ったり、遠方の家族、友人、知人が訪問しやすい体制づくりに取り組んでいる。  (外部評価)  通院支援時、時に、以前住んでいた家の近くを通って、「この辺よね」と問いかけてみたり、利用者から遠方に住むご家族に会いたいと希望があれば、「電話をかけてみる？」と聞く等して、利用者ご本人の思いを探ることに努めて支援のヒントにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりに気配りし、良い関係が保たれるように環境作りを務め、トラブルが起きた時は職員が間に入り、孤立しないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には今後も相談等にのれる事を伝えている。入院や施設入所時にはお見舞いや施設訪問を行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりの日々の様子(表情・言動・体調)を見ながら、本人の意向にそった関わりを持つことに努めている。	
			(外部評価) 新聞広告を見ながら、外食先や好みを聞くようなこともある。利用者の様子のほかにも発した言葉等を日々の介護記録に記入して、職員が把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) その人の経験や生活歴、生活環境、また、これまでのサービス利用の経過については、本人・家族との会話やサービス提供事業者からの情報提供にて把握したり、日々の会話からも把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の体調、心身状態は毎日の申し送りにて話し合い把握するように努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者の毎日の暮らしの中で状況を見極め、担当者と計画作成者が話し合いをしながら介護計画を作成を行い、家族の方に評価や計画書を見て頂きながら、意見や要望を頂き、最終計画書を作成している。モニタリングは毎月行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、長期目標は6ヶ月・短期目標は3ヶ月毎に見直し、ご家族来訪時を捉えて説明している。短期目標に数字を振って支援内容とともに記録し、すべての職員が支援の状況を共有できるようにしていた。</p>	<p>管理者は、利用者の情報を全職員で共有しやすいよう、介護記録のあり方について検討していた。利用者個々の情報をさらに介護計画につなげていけるよう、介護計画作成の一連の流れについて工夫を重ねていかれてほしい。利用者がその人らしい暮らしを続けていけるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 記録は本人の言動や行動が分かるように記録するように努力している。利用者の現状に合った計画が実施されているかを確認しながらサービスを提供している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の家庭環境等により、可能な限り、職員が対応し、家族支援を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運進会議に自治会長・民生委員の方の出席あり、地域情報を伝えてくださる。職員と近くのスーパーへ買い物に行ったり、また、ボランティアによる音楽会の開催を続けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族との受診や職員の付き添いにてかかりつけ医に受診している。その都度、日常の情報提供を行っている。定期受診以外も連携を行い適切な医療を受けられるよう支援を行っている。また、週1回歯科衛生士による、口腔ケアがあり、治療が必要であれば、本人・家族の意向に沿って訪問歯科治療を受けている。	
			(外部評価) 協力医への受診は、ご家族が付き添うようになっているが、ご家族が遠方に住んでいる等、付き添うことが難しいような場合は職員が同行して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師と職員間で利用者の情報交換を行い、看護師は利用者全員の状態を把握し、適切なアドバイスを行っている。利用者の変化についても職員全員で情報を共有し早めの受診対応を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、家族とも相談しながら、主治医、看護師、支援相談員などと情報交換し、家族の意向を尊重しながら対応している。入院中は病室訪問し状態確認をしている。家族、医師、相談員との連絡をしっかり行い、退院時の受け入れ体制を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の希望により、看取り支援を行った。施設での限られた看護、介護を十分説明し理解を頂いた中で医療機関と連携しながら家族や本人に寄り添った支援を行うことができた。	
			(外部評価) 利用契約時に「重症化の場合の対応・看取りに関する事項の同意書」に沿って説明して、状態変化があれば再度説明を行うようにしている。現在、半数ほどのご家族が、「最期までホームで」と希望しているようだ。この一年の間には、ご家族から「入院せずに、ここで看てほしい」と希望があり、看取りまで支援した事例がある。ご家族は、担当医師と話し合いを繰り返し、遠方に住むご家族も帰省してともに看取られた。職員は、利用者が言葉を発しなくなっても語りかけながら支援し、口腔ケアも細やかに行われた。ご家族からは、「ここで良かったです」と言っていたようだ。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、マニュアルに沿った対応を行っている。また、個人ファイルには既往歴等も分かりやすく記入している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指示のもとに年2回、自衛消防訓練を重ねている。避難場所は施設北側の駐車場になっている。運営推進会議時に訓練を行い、自治会長、民生委員、家族、利用者の参加にてスムーズに行う事ができ安全確認も行った。災害時の地域支援をお願いすることが出来た。	
			(外部評価) 運営推進会議と併せて、夜間を想定して避難訓練を行っており、会議メンバーも参加し、利用者の避難誘導等をした。避難済みの居室には、赤いリボンや束ねた毛糸等を使って目印を付けるようにしたが、職員にしか解らないため、今後は、いざという時、外部者にも解るような掲示等に工夫したいと考えていた。備蓄は、倉庫に水・米・缶詰め・カセットコンロを用意している。今後は、地域の自主防災の取り組み等にも参加して、地域と協力し合えるような体制を作っていかれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重しながら声掛けをしているが馴染みの声掛けになっている。雑学など職員に教えてくださるので誇りを持った生活が送れることを心掛けている。プライバシーを損なわない声掛け対応を行っている。	
			(外部評価) 管理者は、日頃よりプライバシーを損なわないように言葉かけすることの大切さを職員に話している。尿とりパッド交換時に、「なんちゃわからなかった」と言う利用者もあるが、職員は、「みな誰しもあるんよ」等と話したり、使用済みのパッドを隠す行為がある場合は、ご本人が気付かないように片づける等して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から利用者の思いや希望を聞くことにより、自己決定ができるように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり過ごして頂くように心掛けている。レクリエーションは利用者個人の希望に沿って行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洗面後や入浴後にきちんと整容されている。個々の好みや、状況に応じた、おしゃれ作りができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は本部の献立表をもとに作っている。野菜の下ごしらえやお盆拭きなど、無理のない程度、手伝ってもらっている。食事の前には利用者が皆にお手拭きを配って下さる。魚の名前や食べ方を教えて下さる利用者もいる。職員と一緒におにぎりや団子作りも楽しんでいる。	
			(外部評価) 職員が当番で食事を作っている。利用者は、もやしの根取りやお盆拭き等ができるよう支援している。又、おにぎりや月見だんご・おはぎを作る時は、利用者が丸める等、活躍する場になっている。箸・茶碗・コップは、各自専用のものを使っている。調査訪問時は、ひな祭りの日でちらし寿司を作っていた。職員は、「常に濃くなりすぎない味付けと、彩り良く盛り付ける」ことに気を付けており、利用者が「いつも美味しいんよ」と話して下さった。昼・夕食前には、DVDを見ながら、口腔ケア・リハビリ体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分量、食事量を記録し栄養状態の観察を行っている。魚の嫌いな方には肉団子やオムレツを提供している。食事量の低下時は主治医に相談している。また、胃の手術をしている利用者には本人、家族の希望によりミキサー食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後のうがいや義歯洗浄、歯磨きの声掛け誘導を行い、本人に口腔ケアを行ってもらっている。週1回 歯科衛生士による口腔ケアを実施。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 「生活リズムパターン」の記録で一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。自尊心を傷つけないよう声掛けに注意を払っている。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに2ヶ所あり、「トイレ」と大きく書いて貼っていた。トイレの中は広く取っており、シルバーカーを使用する方も移動しやすいようだ。夜間、紙おむつを使用する方も、日中は、時間ごとにトイレ誘導して、排泄できるよう支援している。ご本人の安心感も踏まえて、夜間のみベッド横にポータブルトイレを設置して対応しているケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表で排便確認をし、水分摂取の声掛けや散歩、体操を促しながら、定期的な下剤の服用にて排便調節を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴支援を行っている。利用者のその日の体調や気分に応じて無理強いのない入浴を支援している。	
			(外部評価) 利用者個々に週3回、入浴曜日を決めて支援している。入浴予定表を廊下に掲示しており、「今日は私が入る日」と確認する方もあるようだ。職員は、その日の利用者の状態や表情等を踏まえて声をかける等して、無理強いしないよう気を付けている。浴槽は左右どちらからでも湯船に入ることができる造りで、ふちには、可動式の手すり椅子を設置してご自分の力を使って安全に入浴できるよう支援している。脱衣場にバスタオルを掛けた椅子を用意して、ドライヤーを使えるようにする等、準備を行ってから支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や習慣に合わせた休息を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬袋には名前、日付、朝、昼、夕の服用法を記入している。服用時には名前と顔の確認を行っている。服用後は毎回、投薬した者が「印」を押したり、サインをしている。薬も目的や用法については薬局が発行している説明書で理解している。受診の結果や薬の変更についても申し送りしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事前のお手拭きを配ってたり、洗濯物を畳んだり、お盆を拭き等をして頂いている。役割を見つけることで張りのある生活を送れるよう支援している。コーヒー、紅茶等の好みの飲み物を飲んで頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時間が増えており、行事以外での外出を楽しんでいる。施設周辺の散歩やドライブを兼てスーパーへの買い物等支援をおこない、車椅子の方も喜んで外出して頂いている。また、家族との外食なども楽しまれている。 (外部評価) 昨年は、「今年は外に出て行こう」とテーマに挙げ、いろいろな場所に出かけられるよう取り組まれた。月に1~2回、日曜日には、利用者数名ずつが順番に、近くのお寺やショッピングモールに出かけている。好きなお菓子を買ったり、フードコートでおやつを食べる等して楽しめるようだ。暖かい時期には、事業所前の川にザリガニを見に行っている。又、おやつ持参で近くの河川敷でお花見したり、季節に応じて、マイントピア別子に紅葉や菊を見に出かけたり、池田の池の菖蒲やマリンパーク等にも出かけて楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は職員が行っているが買い物に行った際には個人個人が財布を持ち、職員が見守る中で支払いを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から電話の希望がある時には、その都度対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室での太陽の刺激を軽減するため、すだれやカーテン等にて調整している。空調調節を行い、利用者が不快なく過ごせるよう支援し、加湿器の代わりにペットボトルを使用し加湿を行っている。また、玄関ホールでは季節感が味わえるように工夫している。	
			(外部評価) 玄関先の左右にベンチを設置し、プランターにはビオラが咲いていた。玄関には雛人形を飾り、正面のガラス窓から中庭が見える。ユニットの間には多目的ホールがあり、回廊になっている廊下を歩行練習している方がおられた。廊下の端は日当たりが良く、窓際のベンチに座って日向ぼっこする方もいる。多目的ホールのグランドピアノを使って音楽療法の時間がある。毎朝、職員が手すり・ドアノブ・ベッド柵を塩素系消毒液で拭く等して、清潔に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有のフロアやベンチで思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。居室で過ごす一人の時間も大切にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、夫の写真、家族写真など、本人の好まれる雑誌など、馴染みものを持って来ていただき、自宅に近い生活が送れるようしている。	
			(外部評価) 電動ベッド・クローゼットが備え付けとなっている。各部屋にコールボタンがあり、使用する方もある。ご自宅から馴染みの机と椅子を持ち込み、ノートに絵を描いて過ごすような方もいる。小さい鏡台と、整容具を用意している方やご家族の写真を飾っている方もあった。昔のアルバムを持って来られ、当時の事を職員に話してくださる方もいる。毎月、塗り絵付のカレンダーを作り、自室に掛けている。各居室には、花や動物の名前が付いており、絵とともに、利用者の名前を掲げている。調査訪問時には、「私の部屋はうさぎよ」と言って、利用者の方が案内して下さった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部は二つの棟に分かれ、動物と花の名前がついている。利用者は施設内歩行時には自分の居られる棟と違う事を認識されている。ローカ、トイレ内の手すりの設置にて、自らの安全を確認しながら動かれている。利用者が安心、安全に過ごせ、出来る事はして頂き自立した見守り支援をおこなっている。	